

フィリピン 病害と土地の制約によりバナナの生産量が減少

[FreshPlaza 2024年9月30日](#)

ミンダナオ島のバナナ産業は、バナナ病としても知られるフザリウム菌による萎凋病等の病害や土地利用の制約による課題に直面しており、これらはバナナ産業の生産量に影響を与え、バナナに依存する人々の生活を脅かしている。フィリピン・バナナ生産者輸出業者協会(PBGEA)は、この地域でバナナ生産が減少を続けており、約70万人の雇用をリスクにさらしていることを強調した。これらの課題にもかかわらず、過去7カ月間の生産と輸出が増加したと報告されており、従来からの市場である日本、韓国、中東諸国に引き続き輸出されている。しかし、中国ではフィリピンからの供給量が十分でないため、ベトナム、カンボジア、エクアドル等の国々との競争が激化している。

PBGEAの事務局長であるスティーブン・アンティグ氏は、法改正の必要性、特に5ヘクタールを超えるプランテーションの拡大を制限する農地改革法はバナナ栽培の為にならないとして、改正の必要性を強調した。また、この業界は病害虫の被害により、元々あった8万9千ヘクタールのうち1万5千ヘクタールしかバナナの栽培に利用されていないという利用可能な土地の減少にも取り組んでいる。復旧の努力が続けられているが、植物が実を結ぶまでに最大1年かかり、その進展は遅い。

2012年以降の主要な輸出先での市場シェアの減少は、これらの課題がフィリピンのバナナ産業に与える影響を浮き彫りにしている。病気に抵抗性のあるバナナの品種を開発する努力は、残された農地を保護し、セクターの存続を確保するために重要である。PBGEAは、バナナ産業の活性化を目的とした法案に取り組んでおり、これには、キャベンディッシュバナナセクターとフィリピンのより広範な農業に利益をもたらす世界クラスの研究施設を設立する提案が含まれている。

出典: [Business World](#) 及び [Sunstar](#)

中国北部 未曾有の降雨でリンゴの収穫に課題

[FreshPlaza 2024年9月30日](#)

亜熱帯高気圧の影響により、中国北部では9月上旬に頻繁な降雨があり、降水量が平年より大幅に多く、日照時間が少なくなった。これらの条件は、中生のリンゴ品種の成熟期と一致し、果実の着色と糖の蓄積に影響を与えている。生産者は、気象パターンを注意深く監視し、果樹の管理と果実の品質管理に備えている。

中国の主要なリンゴ産地である山東省では、通常、ふじリンゴの除袋(袋はぎ)を9月下旬から10月上旬に予定している。一般的に、リンゴは100日以上袋を掛けられ、その間に果皮が乳白色に変わる。徐袋が早すぎたり遅すぎたりすると(特に雨が降り続く時期)、着色不良やリバーズグリーニング(着色後の退色)及びその他の品質問題を引き起こし、収量と品質に大きな影響を与える可能性がある。

ワンデーワングループ(奕天壹集団)^{イーティン}の製品マネージャーであるリー・シャオリャン氏は、今年は果実の品質を向上させるためにリンゴの徐袋を遅らせたと述べた。雨季が長引くと土壌水分が増加し、気温が下がり、日照が減り、これらすべてが果実の成熟過程に影響を与える。徐袋を遅らせることで、リンゴは温度、湿度、光の変化に適応する時間が増え、成熟状況が改善する。

徐袋は、細心の注意を要する時間のかかる作業であり、その後の収穫作業の管理に大きな影響を与える。同社のふじリンゴは、果実が環境に順応するように外側の袋を最初に取り除き、その2~3日後に内側の袋を取り除くという2段階の徐袋プロセスを経る。この作業は、日焼けを防ぎ、果実の外観を維持するために、午後3時以降または曇りの日に行われる。

リー氏によると、天候条件に応じて徐袋の時間を調整するだけでなく、光を遮る枝の剪定、玉回し、反射フィルム^{マルチ}の敷設、徐袋後のリンゴの緩衝材での保護など、他の品質管理手法も実践している。同氏は、「全体として、今年のふじリンゴの品質については楽観的である」と述べた。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)